

文窓

ふみのまど

神戸大学文学部同窓会誌

発行

平成20年8月31日

第6号

神戸大学文学部同窓会

会長：安部 栄治

事務局

〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1

TEL(078)881-1212(代)

FAX(078)803-5529



文窓会の活動について

文窓会会長 9回生
安部 栄治

神戸大学文学部同窓会「文窓会」の皆様にはお褒りなくお元気で活躍のこととお喜び申し上げます。また、本会の運営につきましては平素から格別のご支援、ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

装いを新たにしてから同窓会誌「文窓（ふみのまど）」も6号をかぞえ、ここに文窓会全員にお届けできることを嬉しく思っています。

文窓会は申すまでもなく、会員相互の研鑽と親睦をはかるとともに、文学部の発展に寄与することを目的としています。そのために多くの事業を行っていますが、皆様に一層の関心を持っていただきたく、最近の活動の一部をご紹介します。

まず、第2回学生レポートコンテスト「文窓賞」には昨年を上回る応募があり、来たる9月27日の第3回神戸大学ホームカミングデイにおいて優秀作品の表彰を行うこととしています。また、かねてからの懸案であった文学部本館の改修が完成し、一部の備品調達に協力いたしました。ホームカミングデイには改修後の学舎をご案内する予定です。

本年度のトピックスとして、文学部が中心となって進めていました第一次世界大戦の際の「青野原俘虜収容所」における地域住民と捕虜との交流の実態究明の成果のひとつである「神戸大学交響楽団によるウィーンでの再現演奏会」を支援することといたしました。

また、本年度は2年に一度の文窓会定期総会がホームカミングデイ行事の一環として実施され、会長、副会長の改選が予定されています。ぜひ会員の多数が出席され、積極的に発言されることを期待しています。

なお、神戸大学は「国立大学法人神戸大学」となって4年が経過し、大学をとりまく環境も徐々に変化しています。とりわけ総合大学としての一体性が問われ、文学部の存在、活躍が大学の発展に非常に大きな役割を担うことになりつつあります。

文窓会といたしましても、こうした認識のもと、会員相互の連携、研鑽、親睦をはかるとともに、文学部の発展に役立ちたいと考えています。

今後とも皆様の一層のご指導、ご協力をお願いします。

「文窓会」の皆様へ

文学部長・人文学研究科長
文窓会名誉会長 佐々木 衛



「文窓会」の皆様、お元気で活躍のことと存じます。

4月に文学部本館の改修工事が終わりました。既に、「文窓HP」でご紹介されているように、この度の改修によって学生の共有スペースを思い切って拡大し、新しい教育研究を開発するためのプロジェクト室や若手研究者室を設けました。また、中庭に通り抜ける玄関、ガラス張りのエレベーター、おしゃれなトイレに改修しました。これによって、旧学舎の暗い、汚い、狭い（臭い）を一掃し、明るい、綺麗、快適を実現することができました。古い学舎で学ばれた方々は、その変貌にきっと驚かれることと存じます。なお、この改修に際しては、同窓会から多額のご寄付をいただきました。おかげで古くなっていった設備と機器を更新することができました。ご寄付に対して教職員を代表してお礼を申し上げるとともに、改修のご報告をいたします。

また、9月3日から10月29日まで、ウィーンで「俘虜収容所の里帰り展覧会」（オーストリア国家文書館と共催）を開催します。第一次世界大戦当時、兵庫県青野原（現在、小野市、加西市に位置）には俘虜収容所があり、ドイツ、オーストリア＝ハンガリーの俘虜兵たちは、それぞれに趣味や娯楽を見出して日常生活を送りました。収容所の設置は短い期間でしたが、彼らを通じて地域社会に多数のあらたな文化や技術が伝えられました。神戸大学は人文学研究科を中心に、これらの事実に関する調査研究に協力してきました。本企画は、この調査研究の成果を、俘虜の祖国での里帰り展覧会、神戸大学交響楽団による収容所演奏会の再現として公開するものです。この企画に際しても、同窓会から多額のご寄付をいただきました。人文学研究科と文学部の教育研究にいつもご支援をいただいていること、心からお礼を申し上げます。

さて、本館の改修工事が終わり、文学部と人文学研究科の教育と研究を展開するための基本的な条件を改めて整えたところですので、引き続き、環境整備などを進めていく計画です。卒業生の皆様、是非一度、新装となった学舎をお訪ね下さい。また、文学部・人文学研究科のこれからの新しい発展を見守って下さるようお願いを申し上げます。

神戸大学文学部生の学生生活を応援する

第2回 文窓賞

学生レポートコンテスト 結果発表

文窓会が現役3・4回生のチャレンジングな学生生活を応援する〈文窓賞〉レポートコンテストに、第2回の今年は昨年を上回る応募がありました。作品は佐々木 衛学部長をはじめ、教授と文窓会役員の選考委員による選考会で、下記のように決定しました。

◎選考基準：元気で個性的な学生生活の独創性や発展性に対する評価と、その活動や体験が社会をどれだけ納得させる力があるかによって選考。

◎選考委員：佐々木 衛 学部長 藤井 勝 教授
林原 純生 教授 松田 毅 教授
安部 栄治 池上 淑子
鞍井 修一 中西 みな子
花木 直彦 日高 健一

CONTENTS

1 文窓会の近況（文窓会会長 阿部栄治）
人文学研究科へ向け
（文学部長・文窓会名誉会長 佐々木 衛）

2 CONTENTS

3 第2回文窓賞 学生レポートコンテスト受賞者発表
優秀賞に選ばれた4名と佳作3名、また今回で参加
いただいた皆さんのお名前をご紹介します。

4～6 文学部新学舎ウォッチング！

耐震工事に伴う改修工事も終わり、見ちがえるほど
ゆったりひろびろと生まれ変わった文学部のあちこ
ちを、写真とコメントでナビゲートします。

7 青野原俘虜収容所：ウィーンでの展示会と演奏会

第一次世界大戦中に兵庫県に存在したドイツ兵、オ
ーストリア＝ハンガリー兵らの捕虜収容所。その捕
虜兵たちと地域住民との交流を掘り起こす、神戸大
学がこれまで重ねてきた地域連携の成果が、捕虜兵
の祖国の一つオーストリア・ウィーンでの「里帰り」
演奏会・展示会となって実を結びました。文窓会も支
援した国際的な学術交流の詳細です。

8～9 『源氏物語』千年紀に寄せて

人文学研究科 国文学 教授 福長 進

平安時代の歴史叙述を専門分野とされる国文学の福
長教授に『源氏物語』に寄せる思いをご寄稿いただき
ました。

10～12(上) 文窓会 会員より

山本 宏美(9回生)、西村 好子(1975年大学院文学研
究科修士課程修了)、谷 淑子(29回生)、塩見 実加(56
回生)の皆様にご寄稿いただきました。

12(下) I T P「東アジア共生社会構築のための多極的
教育研究プログラム」の採択と実施について

13(上) お知らせ 第3回ホームカミングデー

新しくなった新学舎の見学や、大津留教授、長野教
授によるウィーンでの青野原俘虜収容所「里帰り」展示
会と演奏会についての講演会、第2回「文窓賞」入賞者
表彰式など、見逃せないプログラム満載です。

13(下) ホームページ「文窓」の発展にご協力を！

14 東京支部便り/中部支部便り

15 文窓会 平成19年度会計報告

16 学友会/K・U・C/文窓会主催 卒業記念ウェルカ
ムパーティ/編集後記

＜結果発表＞

■最優秀感動賞・最優秀充実賞（いずれも表彰状と賞金20万円）

該当者 なし

■優秀賞（表彰状と賞金5万円）

おめでとう



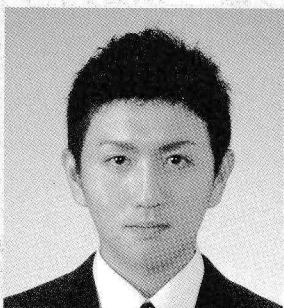
近藤 江梨圭（東洋史学専修）

Cheer Up! 神戸大学!



高内 江梨子（社会学専修）

「普通」でない子供たちに出会って



塚本 京平（社会学専修）

打倒、ムコジョ。
～学生記者 ROOKS 取材記～



真鍋 花菜（西洋史学専修）

自分を信じるということ
－私の就職活動奮戦記－

■佳作（賞金3万円）

生地 進歩（国文学専修）

はちの巣座6月公演復活

窪田 瞳（言語学専修）

ダンスと私

下本 晴日（東洋史学専修）

中国留学－出会い－

応募してくれた皆さん（図書券5,000円分）

飯田 有梨（東洋史学専修）

貝口 真実（英米文学専修）

行事 義裕（芸術学専修）

繁内 優志（社会学専修）

須田 和恵（国文学専修）

田中 寛樹（東洋史学専修）

西出 奈穂（国文学専修）

野口 聡子（芸術学専修）

土師留美子（東洋史学専修）

原田 拓史（日本史学専修）

菱川 涼子（ドイツ文学専修）

増田 珠巳（心理学専修）

本林 良章（哲学専修）

森 美歌（芸術学専修）

（※あいうえお順）

* 優秀作の表彰は、9月27日の第3回文学部ホームカミングデイにて行います。

* 4名の優秀賞受賞レポートは、印刷して文窓会総会時に配布いたします。

文学部本館(A棟)の耐震改修工事 +新館(B棟)・文化学棟(C棟)連結完了 文学部学舎が 明るく、ゆったり、おしゃれに リニューアル！

同窓会の皆様をはじめ各方面の方々のご尽力のお陰で、長年の懸案でした文学部本館(A棟)の耐震改修工事が本年度の春にほぼ完了しました。これで、学生や教職員が明るい雰囲気の中で快適に勉学に励む環境が整いました。

これからの世代の学生たちの学習や研究を包むのにふさわしい新環境を、まずは写真でご見学いただきましょう。

* 今回のリニューアルの目的や改修のポイントはp6をご覧ください。



明るく広く生まれ変わった本館(A棟)

エントランスホール



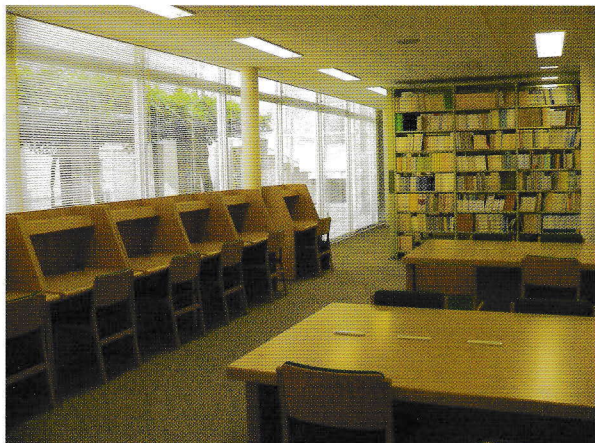
正面玄関から文学部に入ると、本館を北から南へと通り抜けるエントランスホールへと導かれます。神戸大学施設部によれば、このような広々とした内部空間は神戸大学のなかでも特筆すべきものだそうです。エントランスホールの西側(右手)に事務室、東側(左手)に学生ラウンジが見えます。事務室は全面ガラス張りです。

学生ラウンジ



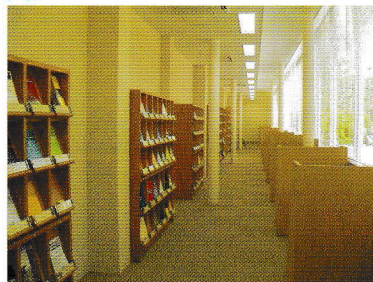
今回の改修部分で特に利用率が高く学生に評判が良かったのが、曲面ガラスで仕切られた学生ラウンジです。毎日多くの学生が講義の予習をしたり、談笑したりしている姿をよく見掛けます。

図書館



図書館の閲覧室が広く明るくなり、地下も含めて書庫が3フロアに拡充されました。エレベーターも新設されましたので、ここでもバリアフリー化が達成されています。

閲覧スペースもゆったり



静けさと自然光の中で読書に集中できる閲覧室。読み疲れたら窓の外の緑に目を遊ばせることができます。

多目的室



B棟に新しく多目的室が誕生しました。図書館と併せて、文窓会の皆様のご利用をお待ちしております。

エレベーター



学生ラウンジの先はエレベータと階段室です。ガラス張りの階段室から明るい光が入ってきます。このエレベータ棟を南に進むと新館に行くことができます。本館と新館の動線が交わる場所にエレベータ棟がありますので、それぞれのフロアへとスムーズに移動できます。

視聴覚室



座席が90席に増え、全ての設備が最新のものとなりました。全ての座席は、将来の情報教育に向けて情報コンセントが設置できる仕様になっています。

本館の南側入り口



海側の光あふれる南側入り口。中庭やエクステリアも整備され、大きな樹木とマッチして、今頃はあふれる緑が海からの風にそよぐ抜群の環境に。

文学部学舎リニューアル工事の詳細について

改修の概要

この耐震改修工事の主な目的は「耐震性の確保」「バリアフリー対策」「教育研究環境の改善」の3点でした。

◎耐震性

平成19年に改正されたばかりの建築基準法の厳しい基準を満たしていますので、十分な耐震性能を持った建物となっています。

◎バリアフリー対策

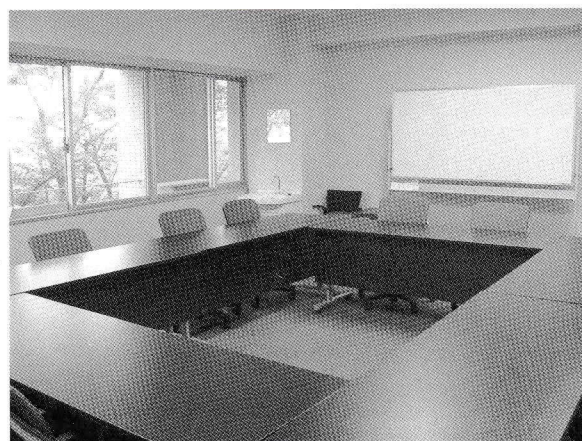
今回の改修計画で特に重視した点です。エレベーターが新設され、誰もが気軽に各階へと向うことができるようになりました。加えて新館（B棟）へとつながる渡り廊下も新設されたことで、本館と新館の間でスムーズに行き来することが可能になっています。一昨年の新館の改修により新館と文化学棟（C棟）の間に渡り廊下が既に完成していましたので、これで文学部の3つの棟すべてが上階で接続されました。また、建物周辺を含めた多くの箇所の段差をできる限り無くしましたので、誰に対しても開かれた学舎となっています。

◎研究教育環境の改善

上に挙げた建物の機能面の改善と併せ、学舎がこのように明るく綺麗になったことで飛躍的に改善されました。特に、学生が利用するコモンスペースが多く新設されたことで、より快適な勉強環境が提供されています。



研究室



耐震のために外壁が二重構造となっています。この壁がちょうど窓の庇となり部屋の中に適度に光が入るため、ブラインドを開けていても仕事や勉強ができる環境となりました。

共同談話室・コモンスペース



2・3・4階の各フロアの中心部に共同談話室とコモンスペースが設置されています。共同談話室は窓から南庭の緑を眺めることができ、静かでリラックスした雰囲気の中で様々なミーティングが行なわれています。

文窓会会員の皆さまへ

すばらしい環境の図書館や多目的室（B棟）がご利用いただけるようになりました。収蔵量・内容とも目を見張るほど充実した図書や雑誌を、明るい光があふれる閲覧コーナーで読みふけったり、同窓の皆さまと多目的室で談笑したり…気軽に足を運んで、心温まるひとときを過ごしてみたいはいかがでしょうか。親しい同窓生とプチ同窓会をひらいて、しばし学生気分を味わうのも乙なもの。帰りは阪急六甲あたりまで坂道をたどり、お茶したり軽く一杯というオプションもいいのでは。

第一次世界大戦終結90周年

神戸大学交響楽団による「俘虜収容所演奏会」 の再現演奏会レポート

青野原俘虜収容所里帰り展示会と演奏会

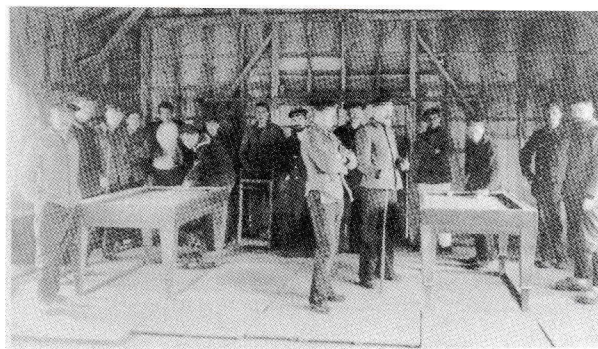
西洋史学 教授 大津留 厚

2008年は第一次世界大戦終結の90周年にあたります。第一次世界大戦当時、兵庫県青野原には捕虜収容所があり、ドイツ兵、オーストリア＝ハンガリー兵合わせて500余名が収容されていました。収容所で捕虜兵たちは、趣味や娯楽に慰みを見出し、スポーツや捕虜の生産品を通じて地域住民と交流がありました。同時に、そこでは戦時の国際関係が敏感に反映されていました。

青野原は現在の兵庫県小野市、加西市にまたがる地域ですが、そのうち特に小野市と地域連携協定を結んでいる神戸大学は、これまで青野原俘虜収容所の実態究明に協力してきました。その成果は2005年の小野市好古館での展示会、小野市交流館エクラでの神戸大学交響楽団による収容所演奏会の再現、2006年の神戸大学百年記念館での展示会、神戸大学瀧川記念学術交流会館における再現演奏会の形で社会

的にも広く認められてきました。

今回の展示会は、文学部同窓会の支援も受けて、捕虜兵の祖国の一つオーストリアで開くことで、青野原俘虜収容所の捕虜兵たちを「里帰り」させることになるものです。これは今までの地域連携の成果を国際的に展開すると同時に、オーストリアに存在する史料、資料も展示することで、国際的な学術交流にも資する狙いを持っています。



ビリヤードを楽しむ俘虜

9月3日・5日オーストリアの首都ウィーンにて神戸大学交響楽団による「青野原俘虜収容所演奏会の再現」コンサートが開かれます。

これに先立ち、関連行事として去る6月29日に人文学研究科大津留厚教授による講演会（小野市商工会館）、8月10日には小野市うるおい交流館エクラにて、また20日には神戸大学にて再現演奏会が開催されました。今回の「里帰り」演奏会と展示会に至る経過とその意義について、大津留教授にご紹介いただきました。また、その成果については来たる9月27日の＜文学部ホームカミングデー＞にて、大津留教授、長野順子教授による講演会「青野原俘虜収容所：ウィーンでの展示会と演奏会」で発表いただきます。

2008年9月3日（水）

俘虜収容所里帰り展示会（10月29日まで）
：オーストリア国立文書館展示室
神戸大学交響楽団による再現演奏会
：国立文書館レセプションルーム

2008年9月5日（金）

再現演奏会：軍事史博物館

主催：神戸大学、小野市、オーストリア国立文書館

『源氏物語』千年紀に寄せて

人文学研究科 国文学 教授 福長 進

今から1000年前に書かれた『紫式部日記』の中に、『源氏物語』が宮中で読まれ評判になっていたという記録があることから、今年は『源氏物語千年紀』として各地でさまざまな催しや取り組みが盛り上がっています。千年という大きな節目を迎えた今、平安時代の歴史叙述を専門分野とされる国文学の福長教授に、あらためて『源氏物語』に寄せる思いをご寄稿いただきました。

今年は、『源氏物語』が書かれて千年を超えたということで、マスコミが先導し、『源氏物語』研究者がその要請に協力して、全国各地で様々な催しが企画・実施されている。『源氏物語』関連の入門書的色彩の濃いあまたの書籍の刊行と相俟って、『源氏物語』の読者層の拡大につながっていることは、歓迎すべきことである。しかし、かかる『源氏物語』ブームのまっただなかであって、見落とされがちであるけれど、『源氏物語』が様々な媒体によって再生産され、大衆化される一方で、憂うべくは、『源氏物語』が読まれなくなり、さらには読めなくなっているのも、覆い隠すことのできない現実である。私どもがテキストを介して向き合う『源氏物語』のしたたかで強靱な精神や、ここぞというとき意味負担量の大きい表現を意識的に用いる、強引で腕力のある『源氏物語』の文章に立ち向かい、格闘する読者が確実に減ってきているのである。千年という『源氏物語』の享受の歴史のなかでは、ほんの一時的な現象なのかもしれないが、新たな読者をたえず獲得して、その読者

が新たな読みを発掘することによって、作品世界が豊かに拡充され続けてきた『源氏物語』の読みの歴史を見据えるとき、黙視することはできないであろう。なぜなら、読むこと自体が、混沌としたエネルギーを湛える器というべきか、そのエネルギーの流出に伴って読みの更新を間断なく促し、もたらす行為に他ならないからである。私は、『源氏物語』が読まれなかったが、そのまま『源氏物語』の読みの枯渇、ひいては作品世界をより豊かにする原動力の低下を招くことに、一抹の不安と危惧を抱くのである。ひるがえって、私どもが一定程度『源氏物語』が読めているのも、千年ものあいだ営まれてきた、『源氏物語』と読者との対話という共同作業の成果による。テキストに施された句読点・カギ括弧、主語や話主の明示、注や現代語訳に至るまで、どのひとつをとっても、過去の読みの恩恵に浴さないものはないのである。読み継ぐことの大切さが、テキストを読むことによってはじめに痛感されてくる。千年紀にあたって真に求められているのは、マスコミに踊らされて『源氏物語』を古典的名作として一途に讃仰する享受者ではなく、『源氏物語』の湛える魅力に触発されて、読むことによってその世界の内実挑戦的に分け入ろうとする読者ではなかろうか。

ところで、今年を『源氏物語』千年紀とする根拠は、なにか。文学史を繙けばすぐに了解されることだが、いずれの物語も正確な作者や成立年時が不明である。作品テキストに作者の自署もなく、成立年時を示す奥書もないからだ。漢詩や和歌とは異なり、作者や成

立事情が問われないことが、そのまま当時の物語に対する評価の反映でもあった。すなわち、物語は漢詩や和歌のように一級の文学として社会的に認知されていなかったのである。『源氏物語』とても例外ではなく、もし『源氏物語』作者の日記、『紫式部日記』という外部資料が残されていなければ、作者や成立に関する諸事情は不明のままであった。

『紫式部日記』は、第六十六代一条天皇の第二皇子、敦成親王（母は道長の娘、藤原彰子。紫式部は彰子に仕える女房であった）の誕生の記録として、外祖父、道長の要請を受けて書かれた。敦成親王の誕生の場面やそれに関連する諸儀式が、その場に身を置く記録者としての冷徹な眼差しによって、一見すると客観的に記されている。しかし、記主と対象とのあいだに横たわる埋めがたい距離にこそ、その場に同化できずに共感を峻拒する記主、紫式部の心のありようが立ち現れていると理解すべきであろう。ほとんど無表情に対象と直に向き合う姿勢を示せば示すほど、かえって対象を見据える記主の疎外感があらわになる、特異な文体で『紫式部日記』は書かれている。

その中に『源氏物語』に関する記事が三箇所見られる。ひとつは、寛弘五年（一〇〇八）十一月一日に執り行われた敦成親王の五十日の祝いの場面である。祝宴も穩座（二次会）に移り、当代随一の才人、藤原公任が酔余の興言として「あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ」と語りかけてきたけれど、紫式部はそれを無視したとある。公任は『源氏物語』の作者、紫式部を『源氏物語』の女主人公、紫の上になぞらえて語りかけたのである。これを紫式部は戯言として無視するけれど、評判の『源氏物語』の作者を女房として抱える中宮彰子を称讃し、追従する公任の計算高い行動に対する反発もあったろう。二つは、中宮彰子が出産のために里下がりしていた土御門第から一条院内裏に還啓される直前に（寛弘五年十一月）、道長の支援のもと『源氏物語』の新写本の作製が営まれたことである。紫式部がそのために里邸にあった草稿本を取り寄せ、局に隠していたが、御前に伺候しているとき、道長がこっそりやってきて持ち去り、次女、妍子に献上したとある。草稿本に手を加えた精稿本は紙を添えて新写依頼のた

めに差し出したが、妍子の所有に帰した草稿本が世に出回れば、芳しくない評判をとることになるだろうと、紫式部は気にしている。この記事の直後に、里居の折の紫式部の述懐が長々と書き記されているが、そこに、「身の憂さ」を忘れようとして、かつて親しんだ物語を手に取り読んでみるけれども、以前のような感興もわかないとある。宮仕えにあっては華やかな『源氏物語』の冊子づくりの中心人物として活躍する紫式部であるけれど、それとは裏腹に物語によっても「身の憂さ」は解消されない、自身の心の内面が冷静に直視されている。三つは、一条天皇が女房に『源氏物語』を読ませてお聞きになられたとき、紫式部の学識を称讃して、「この人は、日本紀をこそ読みたるべけれ。まことに才あるべし」と述べられたことが記されている。左衛門内侍という天皇付きの女房が、紫式部はひどく学識を鼻にかけているなどと悪意に満ちた陰口を言いふらし、「日本紀の御局」というあだ名を付けたことを、苦々しく書きとどめている。この記事はいわゆる消息文のなかにみられ、この出来事の年時を特定するはむずかしいけれど、寛弘四～六年ごろのことと見てよからう。

以上、三つの記事から、寛弘五年の時点で、紫式部自筆の草稿本・精稿本、中宮彰子の命で作られた清書本、公任が読んだテキスト、一条天皇が女房に読ませて聞いたテキストの、少なくとも五本のテキストがあったことが知られる。しかし、それらが完本かいは判然としない。紫式部の宮仕えは寛弘二・三年の十二月とするのが有力な説であるけれど、宮仕え以前に『源氏物語』が完成していたかどうかは、これまた不明といわざるを得ない。宮仕え以後も執筆は続けられ、長和三年（一〇一四）以後の成立と見なす論者もいる。ことほどさように、『紫式部日記』という外部資料が残されていても、なお成立年時は確定しがたいのである。今年を千年紀とするのも、『紫式部日記』によって寛弘五年の時点で『源氏物語』の一部もしくは全部ができあがっていたことが知られ、それが根拠となっている。最初の勅撰和歌集『古今集』が延喜五年（九〇五）に奏覧されたのを『古今集』の成立と見なすのとは異なる事情が物語にはあったのである。

『ゆうゆう会』のこと

国文学専攻 9回生 山本宏美

毎年、2月上旬の日曜日、国文科の古い卒業生が恩師を偲んで集まっている。「ゆうゆう会」である。

今年（平成20年）は三ノ宮ターミナルホテル4階プレジールに35名が集まったが、そもそもはささやかなものだった。島田勇雄先生御夫妻にお世話になった者たちが、御夫妻を囲んで会食したのが始まりで、会場は三ノ宮の焼鳥屋だったり住吉の中華料理店だったりした。個人宅だったこともある。明石の山内舜一宅で開いたおりに子供たちも参加している。山内が主で働き、わたしが副で手伝うかたちの集まりが少しずつ膨らみ、それまでは電話連絡で済んでいたのが、往復葉書で出欠を確認しはじめた。会場も三ノ宮新聞会館8階の中華料理店金龍閣に、さらに神戸ハーバーランドのオーガスタプラザ17階のKUCに移った。プログラムを印刷し、誰に近況報告してもらうかを、司会者は前以て考えねばならなくなった。

平成2年2月4日先生が亡くなられ、7回忌ま

では「ゆうゆう忌」として集まり、以後「ゆうゆう会」と称している。命名者は先輩の丹野浩和さんである。平成8年山内が亡くなり、（沢行雄・山口徳雄も前後して亡くなった）わたしが世話を引き継ぎ、会場は六甲荘2階白鷺の間に変わった。参加者が高齢になり、六甲荘への坂道は辛いと言いついて、平成16年から会場は三ノ宮駅構内のターミナルホテルに落着いた。先輩の尾末奎司・幸子さんのお世話である。（この間、先輩の松本邦夫さんが亡くなった。）

会当日は近況報告でつぶれる。子供自慢・孫自慢する者はいないが、こと病気になると別である。こんなひどい病気に罹り、こんな辛い手術をしたとひとりが口にする、いや自分のほうが大変だったと自慢する者が必ず出てくる。近年、会は病氣話に盛り上がっているが、先生の奥さん（島田すみ子さん）がお元気な間は「ゆうゆう会」は続くのだから、古い卒業生のみなさん、どうか自重自愛のほどを。

漱石研究をして、生きる

1975年大学院文学研究科修士課程修了

（日本近代文学専攻）/文学部非常勤講師 西村好子

還暦を迎えた私は、満49歳で亡くなった漱石よりは、11歳も年上になってしまった。玉石混交の漱石研究論の中で「石」のような拙論を積み重ね、10年前に『散歩する漱石』を刊行した。これからは時間もあることだし、「玉」のようなものを書けるかもしれないとひそかに期待し、区切り目ということで、『寂しい近代—漱石・鴎外・四迷・露伴』（翰林書房）を本年中に上梓する予定である。

なぜ、漱石の「満韓ところどころ」の拙論タイトル「寂しい近代」を、表題に選んだかといえ、この作品の結末が現代に通じているからである。中国の撫順炭坑の坑内を、漱石が「奥へ奥へと下りて行つた」暗い世界が、私たちが生きている現代につながっているのだ。石炭から石油にエネルギー転換したにもかかわらず、石油の暴騰で資本主義システムが揺らいでいる現代を生きている私たちを、坑内に下りて行つた漱石が逆照射している。

故・猪野謙二先生に教えて頂いた「現代日本の開化」に次のような文章がある。

現代日本が置かれたる特殊の状況に因つて吾々の開化が機械的に変化を余儀なくされる為たゞ上皮を滑つて行き、又滑るまいと思つて踏張る為に神経衰弱になるとすれば、どうも日本人は氣の毒と言はんか憐れと言はんか、誠に言語道断の窮状に陥つたものであります。（明44）

現在、「開化」はIT化に「機械的に変化」し、グローバリズムは世界を覆い、なすすべもなく流されている私たちは、「言語道断の窮状」に陥つて鬱病にならざるを得ない。

遺作『明暗』の構造は格差社会の現代にあてはまり、富裕階層の末端にいる津田は、洋書を読み二階に上がり、貧困階層であるフリーター小林は満州をめざす。しかし、現代のフリーターに満州はなく、内面という暗い世界の「奥へ奥へ下りて」行つて、とぐろを巻くほかはない。定年を迎え中等遊民になった私は、文明化の結果としての温暖化ゆえに熱帯夜の続く神戸の地で、しばし思考停止になりながらも何とか踏ん張り漱石研究をして生きていきたい。



「散歩する漱石」
翰林書房
2800円+税

空から降る一億の星

大学を卒業して、30年近くが過ぎました。長い海外生活が終わり、今は奈良に住んで、カルチャースクールで手工芸講師をしています。

「谷淑子パウエルンマーレイ講座」…これが私の講座名です。「パウエルンマーレイ」というのは、ドイツ語で「農民の絵、絵付け」と言う意味。木やブリキでできた箱やハンガーなどの生活用品、あるいは家具に、アクリル絵の具を使って花や鳥、風景などを描く、日本でいうトールペインティングの一種です。

私はオーストリアで過ごした2年間、この趣味に夢中になりました。

GERASという、チェコとの国境に位置するオーストリア北部の田舎町に昔からの修道院ホテルがあり、年間を通じて様々な手工芸講座が開かれています。

そのパウエルンマーレイ講座で、思いがけない、数々の貴重な経験を積むことができました。

2004年の秋に参加した2週間のパウエルンマーレイ講座の様子をご紹介します。

毎朝9時にお教室が始まります。

今回の参加者は18名。レア、モニカ、ミーブ…名前は可愛いけれど、みんな年金生活に入った優雅なおばあちゃんたちです。日本と同じく、ここでも手工芸はお年寄りの趣味になっているようです。

大きなアトリエで、一人ずつ大きな机をもらって道具を広げます。エルニ先生は24年のキャリアを持つ、博識なパウエルンマーレイ講師。先生のアイデアに基づいてデザインを選び、色を選び、下絵を描いて、絵の具で塗り、ニスで仕上げます。

ノアは伝統的な花嫁道具である小さな引き出しがっ



サンケイイヤーズプレートコンテスト2007
銀賞受賞の「我が家に猫がやってきた」
子猫だったティモシーは、今では、充分な貴族です。

英米文学専攻 29回生 谷 淑子

いた宝石箱に、色とりどりの花、ドラはクリスマスモービルの丸い玉に、キリストと天使を描く…おばあちゃんたちのアイデアはつきません。

12時で午前のクラスは終わり、ランチをとって、しばらくのお昼寝の後、午後は2時から始まります。のんびり、午後の日差しが差し込む部屋で、絵筆をはしらせるみんな。

まず、素材を紙やすりで滑らかにし、下地を塗ってその上に下書き。そして絵の具をのせていく。根気のいる、面倒な作業が続きます。

午後6時、午後のクラスは終了です。

さあ、ここからがヨーロッパの奥様方ならではのサパーの始まりです。机の片付けが終わると、大きなテーブルに集まって、それぞれに、パン、ペースト、チーズ、ハムなど、持ち寄りの食材を並べます。ワインをグラスに注ぎ分けます。ハムを切ってチーズをパンに載せ、ワインを味わう…デザートは葡萄とりんご。

その後も、頭にヘッドライト、目には潜望鏡のような大きな老眼鏡をかけて、9時、10時まで描きます。ほんとうに、描くことが好きでたまらない人たちの集まりだと思います。

クラス最後の日、お別れディナーに出かけた、チェコのレストラン。

麦畑の向こうに広がる地平線の上に、まだ夕日が低く残っている夕暮れ、チェコとの国境に向かって車を走らせます。チェコは知る人ぞ知る、グルメの国です。

その日のメニューは、3種類の豚のロースト、ポテトサラダ、いためたジャガイモ、きゅうりのサラダ。デザートはオーストリアの伝統的な家庭のケーキ、カルデイナーシュニッテン(メレンゲとスポンジで作ったケーキの間に生クリームをはさんであります)。

シュトルムと呼ばれる、秋にでたばかりの新ワインを飲み、お料理に舌鼓をうちながら、奥様方はゆっくりおしゃべりし、秋の夜長を楽しみます。

さあ、お開き。レストランの外に足を踏み出すと、ワインで熱くなったほっぺに冷たい夜風が心地よい。紺碧の空には、降り注ぐ満天の星…

こういう機会に恵まれた幸せに、心から感謝した一瞬でした。

ご縁があつて知る機会を得た、ヨーロッパ伝統の工芸、そして、それを生み、包み込むヨーロッパの人々の生活の空気を、日本のペインティングを愛する人に伝えていきたい、このささやかな思いを大切に、これからも活動を続けていきたいと思っています。

社会人になった今、学生の皆さんに伝えたいこと 英米文学専修 56回生 塩見実加

7月。社会人になって4か月目に入りました。大学時代の7月、8月は夏休みの計画に想像が膨らむ、心穏やかな季節でした。しかし外回りの営業をする者にとっては夏の暑さは試練です。

私は今株式会社リクルートで、リクナビという新卒採用媒体の営業をしています。うちの会社の新人に対するスタンスは「とりあえずやってみろ」。入社して一か月の研修を終えたのち、5月に入るとすぐに一人で営業に行くようになりました。もちろん分らないことばかりで戸惑うことも多いですが、同期とともに試行錯誤をしながら、上司や先輩に助けられながら、毎日充実した日々を過ごしています。

仕事柄、企業の人事担当者の方（中小企業なら社長）に毎日お話を伺っています。そこで皆さん仰るのは、大学時代何かに打ち込む経験がその後の人生に本当にいかされるということです。就職活動をするにあたって、企業研究をするのも業界

研究をするのももちろん大事。けれど、何かに打ち込んで、結果が出せずに苦しんだり、壁にぶち当たって途方にくれたりする中で、そんな自分と向き合って何かをやりきった経験をたくさん積んできてほしい。面接ではそれを等身大で表現してほしいとお伺いします。

大学は自分がやりたいと思えば、何でもできる場所。在学中の皆さんも、卒業までに貴重な経験をたくさん積まれることでしょう。私の学生時代は、ご指導下さった先生方、学部や部活の友達、家族、色んな人に支えられた4年間だったと改めて感じています。

新人にとってのマイペースとは全力疾走だと言われます。営業1か月目の時に作った資料。今見返すと、あまりの稚拙さに思わず笑ってしまいました。今の自分も、3か月後の自分に笑ってもらえればいいなと思っています。

ITP「東アジア共生社会構築のための多極的教育研究プログラム」の採択と実施について

人文・社会ITP推進委員会委員 人文学研究科 教授

緒方 康

独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「平成20年度若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）」に、神戸大学人文学研究科と国際協力研究科が応募していた「東アジア共生社会構築のための多極的教育研究プログラム」が採択され、5年間にわたってプログラムが実施されます。

本事業は、アジアと欧米の東アジア研究に関して、地域研究・歴史文化研究という複数ディシプリン内の諸分野を相互に参照する複合的トレーニングを行うことを通じて、政治と文化の問題が複雑に関連した東アジアにおいて、対話や共生のためのグランドデザインを構築できる人材を養成することを目的とします。

こうしたプログラムをより効果的に進めるために、7つの海外パートナー機関（中山大学、国立台湾大学、成均館大学校、ソウル大学校、ワシントン大学、ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院、国立パリ政治学院）と緊密な連携をとりながら、事業を推進していきます。

具体的には、神戸大学人文学研究科と国際協力研究科の博士後期課程で学ぶ大学院生やポスドク・助教から選抜された対象者に対して、以下のようなトレーニング・プ

- 計画の第1年度 「アジアプログラム（10月～6月）」
海外パートナー機関において最長270日間のアジア研修を行います。
- 計画の第2年度 「欧米プログラム（10月～6月）」
同上
- 計画の第3年度
「博士論文の現地語・英語による作成及び海外出版」
- 計画の第4～5年度
「コロキウム（集中セミナー）開催等による国際研究企画運営能力の育成、グランドデザインの構築」

ログラムを実施していきます。

今年度（平成20年度）は、神戸大学人文学研究科・国際協力研究科の博士後期課程1～2年生、及びポスドク・助教を対象に、「アジアプログラム（2008年10月～2009年6月）」を実施します。海外パートナー機関の内、中山大学、国立台湾大学、成均館大学校のいずれかにおいて、社会調査、語学研修、国際共同研究等の研修を積み、アジア学の最先端の研究を担える能力を培います。

振り返れば六甲の山並み～あの頃の友に会いたい

第3回 神戸大学&文学部 ホームカミングデイ2008 Kobe University Homecoming Day 2008

9月27日(土)

神戸大学ホームカミングデイ2008

卒業生の皆様！懐かしいキャンパスで現役学生や教職員の方々と交流を深めるホームカミングデイが、今年もまもなく開催となります。昨年に引き続き、留学生ホームカミングデイとの合同開催でさらに盛り上がる1日になりそうです。お誘い合わせの上、文学部を始め、リニューアルした各学部の学舎の見学も兼ねて、ぜひ足をお運びください。

■記念式典(11:00～12:10)

■会場/六甲台講堂 ※招待者のみ

■特別展示見学・イベント

●神戸大学史特別展／神戸大学百年の歩み(9:30～17:00/百年記念館) ●社会科学系図書館見学(登録有形文化財)／1933年建設、大壁画やステンドグラスで装飾された大閲覧室、常設展などを観覧できます。(10:00～17:00) ●ホームカミングデイ市／大学農場産のジャガイモの「らんらんチップス」、産学連携による大吟醸酒「神戸の香」ほか、神大オリジナルグッズを販売(10:30～17:00/六甲大講堂前)

※詳しくは下記のホームページを参照。

神戸大学 ホームカミングデイ

<http://www.kobe-u.ac.jp/hcd/index.htm>

文学部ホームカミングデイ2008

12:30～14:00 受付(会場 文学部B棟152教室)

13:00～13:50 改修後の文学部学舎巡見

14:00～14:10 文学部長挨拶

14:15～15:15 大津留厚教授、長野順子教授による講演会
「青野原俘虜収容所：ウィーンでの展示会と演奏会」

15:25～16:10 第2回文窓賞(学生レポートコンテスト)
入賞者授賞式

16:10～16:40 文窓会総会

16:45～18:00 懇親会 <参加費: 2,000円>
(瀧川記念学術交流会館1階)

旧友お誘い合わせのうえ多数ご参加ください！

展 示

地域連携センター、海港都市研究センター、
倫理創成プロジェクト等の関係展示。

(13:00～16:40/文学部B棟152教室前)

※詳しくは下記のホームページを参照。

文窓会(文学部同窓会)

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

ホームページ「文窓」の発展にご協力を！

萩 紀男(国文学 8回生)

一年限りの約束で始めたホームページ「文窓」の管理(＝編集)の仕事だが、後継者が現れないままやがて三年になるとうとしている。その間、ありきたりのホームページではなく、神戸大学文学部・大学院人文学研究科の同窓会にふさわしいものをと心掛けてきたつもりである。しかし、その思いがどこまで達成されたかは甚だ疑問である。けれども、元々ホームページというのは参加者全員で作りにくくものだと思う。よいものが出来るかどうかは、全て皆さん次第である。

さて、社会の第一線で活躍中の皆さんにとっては、同窓会のことや、ましてホームページのことなど日ごろ殆ど思い

浮かべることはないであろう。わが身を振り返れば、それは容易に想像できる。従って、皆さんからの反応が全くない日が続いても、まあこんなものかなと自ら慰めるようにしている。しかしそうはいくものや、しばしば無力感に陥ることもある。

そこで皆さんに次のことをお願いしたい。ご多忙の中でも、僅かな時間でもよい、同窓会やホームページのことを思い出していただきたい。そしてたとえ短いものであっても投稿いた

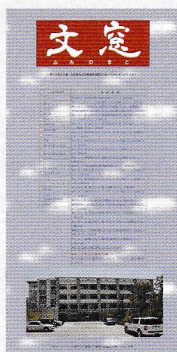
だきたい。日頃感じておられること、学生時代の思い出、社会のこと、人生のこと、家庭のこと、同窓会へのご意見、ホームページへの批判、或いは会員相互の連絡など、何でも結構です。皆さんからの投稿の積み重ねが、よいホームページを生み出す原動力になると思います。

また一方、同窓会幹部の方々には、機関誌「文窓」と並ぶ広報手段として、ホームページの活用をお考えいただきたい。コミュニケーションの方法としては、双方向性、即時性、画像による可視性においてこれにまさるものはないと思います。

さて私は、神戸を離れた草深い片田舎で、老いを友とつつ生活している。したがって取材活動には自ずと限界がある。例えば、私はかねてから、職場で活躍する同窓生の姿を記事にしたいと考えてきた。新しく社会へ出る後輩たちへの指針になると思うからである。しかし、それは大都市に身を置いて初めて出来ることである。年老いた隠棲の身には困難が先に立つ。やはりホームページの管理者(＝編集者)は京阪神地方にお住まいの若い人にお願いした方がよいと思う。

何方か、あとを引き継いでくださる方いらっしゃいませんか！

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>



東京支部便り

●第5回分窓会東京支部総会 及び木曜会報告書

下記お知らせします。

1. 第5回東京支部総会

① 日時 2007年10月25日 14時30分

② 出席者

世古一穂教授、本部の日高健一副会長を含め13名

③ の1

神戸大学基金の件：10年間で200億円の基金を目指すことになり、2008年3月までの当面の目標は、30億円。

卒業生個人の基金集めはすでに始まっているが、これから企業相手に基金集めをすることになり、委員を決めて大手会社へのアプローチを始める。

大手会社へのコネを持っている方に応援をお願いすることになる。

(以上基金推進協力委員事務局からのお願い。文学部を代表して中野裕が国立大学法人神戸大学基金推進協力委員を引き受けています。)

③ の2

次回第6回の支部総会も文学部担当の木曜会の日にあわせて開催することにした。次回第6回の支部総会は、2009年2月26日(木)に開催予定にて、東京支部の皆様の多数の参加をお願い致します。

2. 木曜会(文学部担当)

① 日時 2007年10月25日 18時

② 出席者 全学部で23名、内文学部の出席者は12名。

③ 講師

世古一穂教授(昭和50年文学部卒、現在金沢大学大学院人間社会環境研究科教授。特定非営利活動法人NPO研修・情報センター代表理事)

④ 講演内容

「つぶやきを形に おもいをしくみに」

(NPOについての詳細なるしくみと現状を自分の半生を振り返りながらの講演であり、感銘を受けた)

※今回本部から2007年度支援金5万円いただき、これにて通信費をまかなった。バックアップに感謝しています。

また、33年卒の佐藤逸子様より1万円のご寄付をいただき、有意義に使用させていただきました。ありがとうございます。

今後の木曜会の日程

2008年 9月25日(木) 経済学部担当
10月30日(木) 海事科学部担当
11月27日(木) 理学部担当
2009年 2月26日(木) 文学部担当
3月28日(木) 農学部担当

次回2009年2月26日の木曜会の講師を募集中です。
自薦他薦での推薦をお願い致します。

FAXでの連絡は、凌霄クラブから直接ご自宅に流す方法を取っています。

新たにメールアドレスを取得された方は、下記に連絡をお願い致します。

(東京支部幹事 9回生 中野 裕)

〒223-0064 横浜市港北区下田町1-1-113
TEL&FAX : 045-561-6317
Eメール : y.nakano.1938-panda@d9.dion.ne.jp
9回生 中野裕

中部支部便り

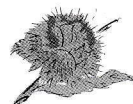
文窓会中部支部の第4回総会・懇親会が6月21日、名古屋・池下のホテル「ルブラ王山」で開かれた。あいにくの雨模様にもかかわらず、神戸から参加いただいた日高健一、池上淑子副会長を加え17人の会員らが集まった。

あいさつに立った勝原博支部長は「出席予定の会員で、やむを得ず欠席になった方もいる。今年は出席できないが、来年は参加したいとのメッセージの方も数人おられたので、来年の総会が楽しみ。また秋のホームカミングデーに1人でも多く中部支部から参加しよう」と積極的な参加を呼びかけた。文窓会本部の日高さんから、文学部校舎のリニューアルや文窓会活動の近況が報告された。引き続いて第3期の活動報告、会計報告、福井県の会員参加に伴う規約一部改正などが報告され、全員で了承した。

記念講演は江村治樹名古屋大学教授(昭和46年東洋史卒)が「中国古代青銅貨幣の生成と展開」のタイトルで、自らが学問を目指したきっかけを語り、スクリーンに図を映しながら中国古代社会の貨幣と都市の関係を、1時間半講演した。

池上淑子さんの乾杯発声で懇親会は始まり、今年初めて参加した的場治子さん(三重県熊野市、昭和46年国文学卒)、井上雅子さん(名古屋市、平成16年芸術学卒)を囲み、思い思いの会話が弾んだ。来年6月の第5回総会での再開を誓って散会した。

この後、数名で尾張徳川家の庭園で所蔵品を公開展示している徳川美術館を訪れ、武士文化の粋を鑑賞した。
(中部支部幹事 16回生 藤原 博)



文窓会（文学部同窓会）— 会計報告 —

平成19年度収支計算書（平成19年7月1日～20年6月30日）

収 入 総 額	15,221,582	（当期収入 11,069,320）
支 出 総 額	11,974,330	（当期支出 11,974,330）
差 引	3,247,252	（当期差引△ 905,010）

20年度予算書
（20・7・1～21・6・30）

収 入	8,328,252
支 出	8,328,252
	0

収 入 の 部	予算額	決算額	差 異	20年度予算額
会 費 納 入 金	4,000,000	4,140,000	140,000	4,000,000
協 力 金	1,000,000	860,000	△ 140,000	1,000,000
利 息 金	5,000	11,320	6,320	1,000
総 会 等 会 費	80,000	48,000	△ 32,000	80,000
雑 収 入	0	0	0	0
前 年 度 繰 越 金	4,152,262	4,152,262	0	3,247,252
積 立 金 取 崩 金	5,000,000	6,010,000	1,010,000	0
収 入 合 計 額	14,237,262	15,221,582	984,320	8,328,252

支 出 の 部	予算額	決算額	差 異	20年度予算額
会 議 費	150,000	94,356	△ 55,644	150,000
事 務 印 刷 費	50,000	49,551	△ 449	50,000
通 信 交 通 費	120,000	115,230	△ 34,770	150,000
交 際 接 待 費	250,000	215,000	△ 35,000	250,000
協 力 金 費	900,000	818,100	△ 81,900	1,200,000
（学友会費）	(200,000)	(116,000)	(△ 84,000)	(200,000)
（活動援助費）	(200,000)	(202,100)	(2,100)	(200,000)
（学術助成費）	(500,000)	(500,000)	(0)	(800,000)
会 報 費	1,800,000	1,404,727	△ 395,273	1,700,000
歓 送 迎 会 費	500,000	497,543	△ 2,457	550,000
（卒業生対象）	(500,000)	(497,543)	(△ 2,457)	(550,000)
（入会生対象）	(0)	(0)	(0)	(0)
総 会 幹 事 会 費	350,000	302,000	△ 48,000	400,000
事 業 活 動 費	1,300,000	1,373,038	73,038	500,000
慶 弔 費	100,000	60,000	△ 40,000	100,000
雑 費	50,000	44,785	△ 5,215	50,000
積 立 金	0	1,000,000	1,000,000	1,000,000
施 設 改 修 寄 付	6,000,000	6,000,000	0	0
予 備 費	2,637,262	0	△ 2,637,262	2,228,252
支 出 合 計 額	14,237,262	11,974,330	△ 2,262,932	8,328,252

平成19年度財産目録（平成20年6月30日現在）

科 目	金 額	
I 資産の部		
（1）通常会計流動資産		
現 金	1,873	
普通預金	20,496	（中央三井信託銀行）
普通預金	773,019	
普通貯金	1,606,084	（郵便局）
郵便振替	845,780	3,247,252
（2）特別積立金		
定期預金	10,500,000	（みなと銀行 3通）
定額郵便貯金	8,210,000	（郵便局）
		18,710,000
II 負債の部		
（1）流動・固定負債	0	0
III 正味財産合計		21,957,252

事業年度に係る決算報告書を監査した結果、
適正であることを認めます。

平成20年8月28日

会計監査 中 川 一 三 印

会計監査 永 田 良 印

神戸大学学友会について

神戸大学学友会は各学部同窓会の相互交流と大学の発展に寄与するため、同窓会の連合体として組織され、各学部から選出された人たちによる幹事会で運営されています。

具体的な活動としては、幹事会や大学役員との懇談会のほか、大学広報誌（KOBE university STYLE）編集委員会、神戸大学クラブ（KUC）運営委員会、データベース委員会などです。現在、学友会を構成している同窓会は下記のとおりで、会長は新野幸次郎凌霜会理事長です。

神戸大学学友会を組織している同窓会

● 神戸大学文窓会	● 神戸大学翔鶴会	● 神戸大学紫陽会	● 社団法人凌霜会
● 神戸大学くさの会	● 神戸大学神録会	● 神戸大学就進会	● 社団法人神戸大学工学部振興会
● 神戸大学六篠会	● 神戸大学海事科学部同窓会		

「神戸大学クラブ」(K・U・C)に入会しませんか

神戸大学卒業生が学部の壁を越えて、交流をはかり親睦を深める集いがK・U・Cです。神戸、大阪、東京で、それぞれ別々にいろいろな活動を展開しています。神戸K・U・Cは元町の牡丹園に事務所を置き、講演会、読書会、ゴルフ、旅行など、楽しい催しを実施しています。

ご入会ご希望の方は **078-334-1323** までご連絡下さい。

詳しいパンフレットをお送り致します。

(K・U・C運営委員 日高 健一)



文窓会主催卒業記念ウェルカムパーティー



平成20年3月25日
於ランスボックス



がんばれ！！文窓会新会員

今年も恒例のパーティーが華やかに行われました。
希望と自信を抱いた一人一人の瞳は輝いていました

編集後記

7年前いきなり文窓会の幹事長と「文の窓」の編集長を命じられました。卒業以来40年間全く母校と縁のなかった私には、文学部の現状の一つ一つが驚きと羨望でした。何しろ私たちは今は無き御影校舎でしたから。その為に各号の特集が古い同窓生の関心を引いても新しい同窓生には当然のこと何を今さら、と思われることも多かったのではと反省しています。しかし今号の「文学部 新学舎ウォッチング」は今春の卒業生も含め全文窓会員にニュースであると考え少し贅沢にスペースを割きました。卒業生も自由に使える多目的室と図書館、バリアフリー対策万全、誰に対しても解放的な明るい学舎となりました。ホームカミングデイ、文窓会総会のご出席も兼ねてぜひお確かめください。＊今年も源氏物語千年紀、福長 進教授に特別にご寄稿をお願い致しましたところ、ご快諾いただき中頁見開きを極上のものに出来ました。改めて先生には感謝申し上げます。＊文窓賞、残念ながら該当作品なしで4名を優秀賞と致しました。来年に期待します。＊国立大学の法人化も4年前にスタート、文窓会としましては色々考えさせられること多々ありました。こうした歴史の変わり目に同窓会の役員でありましたこと、面白くもありました。＊9月27日をもって幹事長、編集長から退くことになりました。文窓会の益々の発展と「文の窓」がより充実したものになりますことを祈念しつつ筆を折ります。有難うございました。(鞍井記)

題字：文学部教授 福長 進先生にご依頼しました。